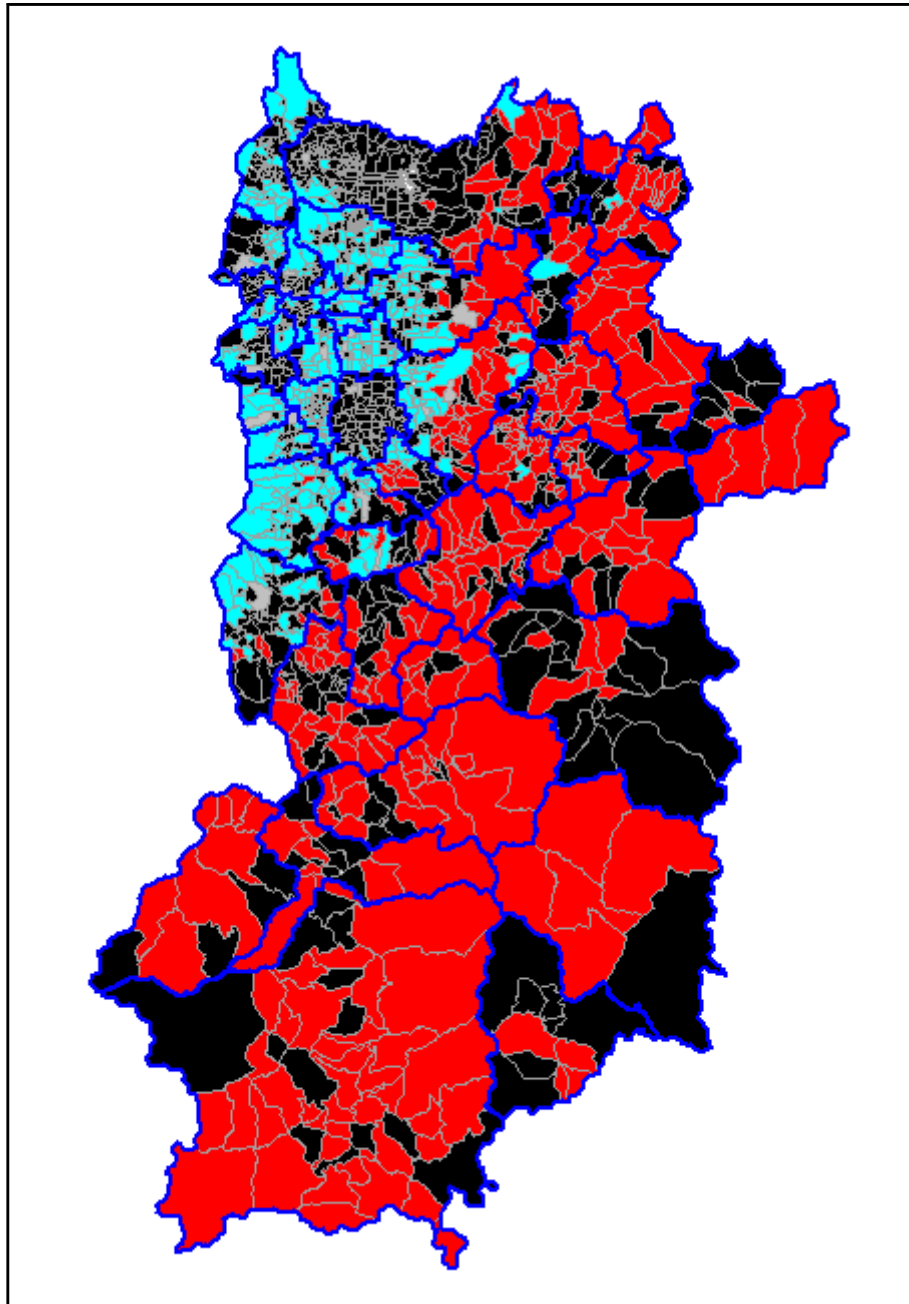


# 農業・林業集落アンケート調査によるシカの生息状況・被害状況(平成24年度)

## 1. 平成24年度農業・林業集落アンケート調査によるシカの分布



図は平成24年度の農林業集落アンケート調査による、シカの分布である。

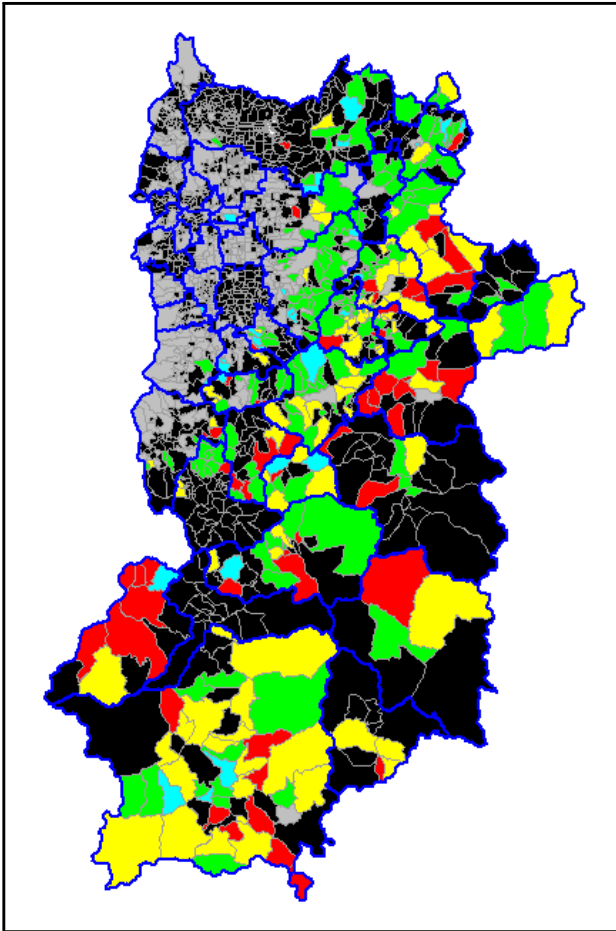
農業、林業の両方、またはいずれかのアンケートで、シカが「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

前年度までと同様、県北西部の奈良盆地、生駒・葛城・金剛山系を除く県北東部から県東部・南部にかけて広い地域から、シカが「いる」との回答があった。なお、奈良盆地南部付近で分布の拡大が見られる。

・平成24年度	
■ いる	387集落
■ いない	350集落
■ 回答無し	21集落
■ 回収無し	1050集落
全	1808集落

凡例 図中 青線 市旧市町村界 旧市町村界内側の線 大字・地区界  
なお、この旧市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

## 2. シカの農業被害の大きさ



右図は平成24年度の農業集落アンケートによる、農業被害の大きさの意識調査の結果である。

シカが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった341集落の内訳は下記の通りである。

被害が「大きい」又は「深刻」と回答しているものが、併せて約41%あり、シカによる農業被害意識は大きいことがわかる。また、「軽微」という回答を併せると、被害認識は90%を超え、県内の多くの地域でシカによる農業被害が生じている。

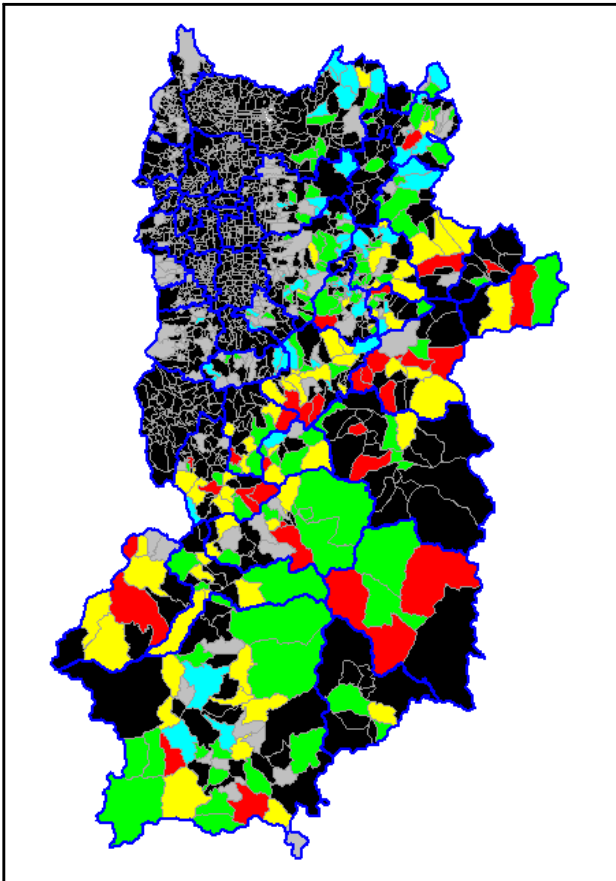
### ・平成24年度

ほとんど無い	31集落 (9.1%)
軽微	169集落 (49.6%)
大きい(生産量の30%未満)	87集落 (25.5%)
深刻(生産量の30%以上)	54集落 (15.8%)
回答数	341集落

### ・参考)平成23年度

ほとんど無い	68集落 (18.3%)
軽微	131集落 (35.2%)
大きい(生産量の30%未満)	108集落 (29.0%)
深刻(生産量の30%以上)	65集落 (17.5%)
回答数	372集落

## 3. シカの林業被害の大きさ



右図は平成24年度の林業集落アンケートによる、林業被害の大きさの意識調査の結果である。

シカが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった259集落の内訳は下記の通りである。

前年度と同様、被害が「大きい」又は「深刻」と回答しているものが、併せて約38%あり、シカによる林業被害意識は大きいことがわかる。また、「軽微」という回答を併せると、被害認識は80%近くに達し、県内の多くの地域でシカによる林業被害が生じている。

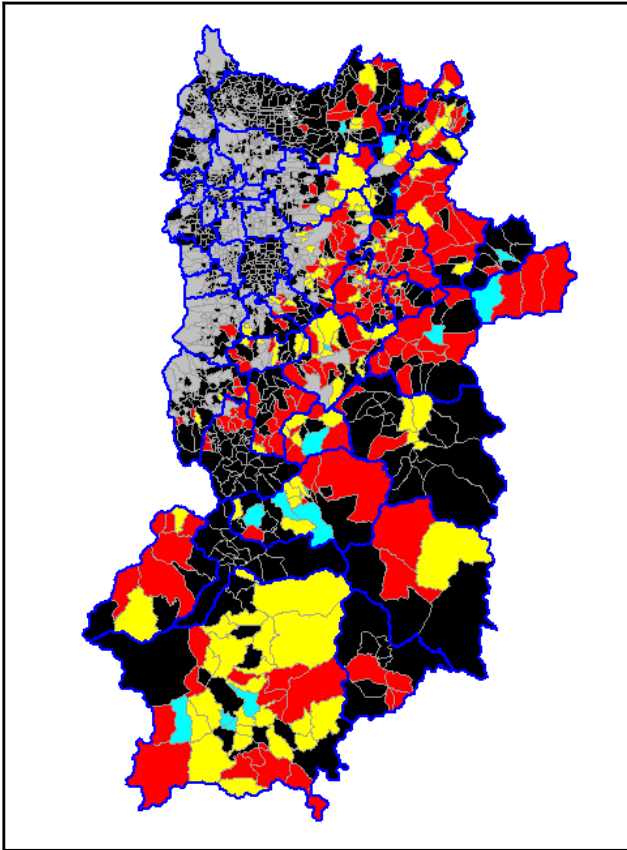
### ・平成24年度

ほとんど無い	55集落 (21.2%)
軽微	105集落 (40.5%)
大きい(生産量の30%未満)	67集落 (25.9%)
深刻(生産量の30%以上)	32集落 (12.4%)
回答数	259集落

### ・参考)平成23年度

ほとんど無い	63集落 (22.2%)
軽微	111集落 (39.1%)
大きい(生産量の30%未満)	82集落 (28.9%)
深刻(生産量の30%以上)	28集落 (9.8%)
回答数	284集落

#### 4. シカの農業被害の増減



右図は平成24年度の農業集落アンケートによる、農業被害の前年と比較した被害増減の意識調査の結果である。

シカが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった336集落の内訳は下記の通りである。

被害が前年度と比べて、「増えた」と回答しているものが、60%近くになる一方、「減った」と回答しているものは約5%と、多くの地域で被害は減少していないことがわかる。

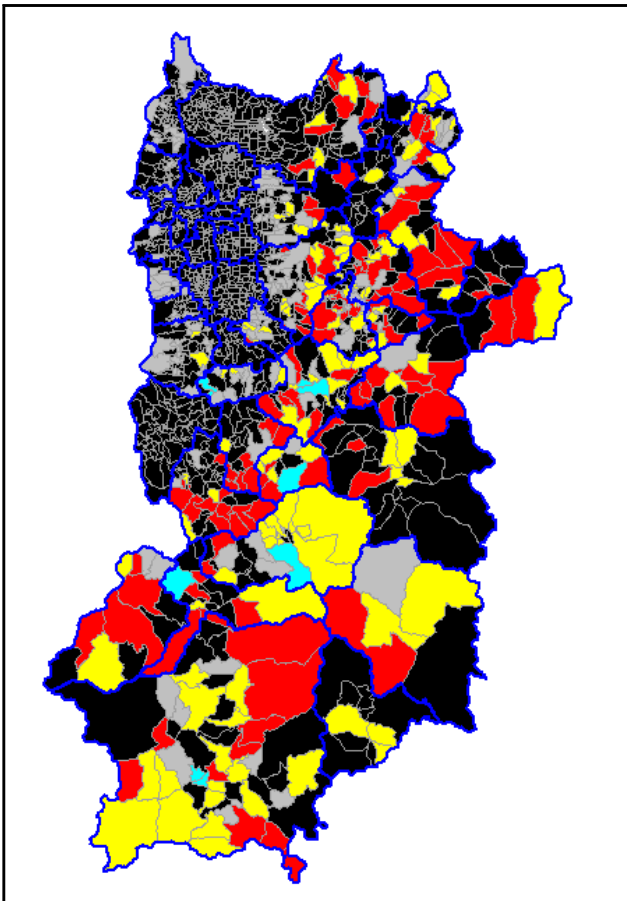
##### ・平成24年度

■ 増えた	199集落 (59.2%)
■ 変わらない	119集落 (35.4%)
■ 減った	18集落 ( 5.4%)
回答数	336集落

##### 参考) 平成23年度

■ 増えた	210集落 (59.4%)
■ 変わらない	134集落 (38.0%)
■ 減った	9集落 ( 2.6%)
回答数	353集落

#### 5. シカの林業被害の増減



右図は平成24年度の林業集落アンケートによる、林業被害の前年と比較した被害増減の意識調査の結果である。

シカが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった254集落の内訳は下記の通りである。

被害が前年度と比べて、「増えた」と回答しているものが、約48%となり、「減った」と回答しているものは約3%と、多くの地域では被害が減少していないことがわかる。

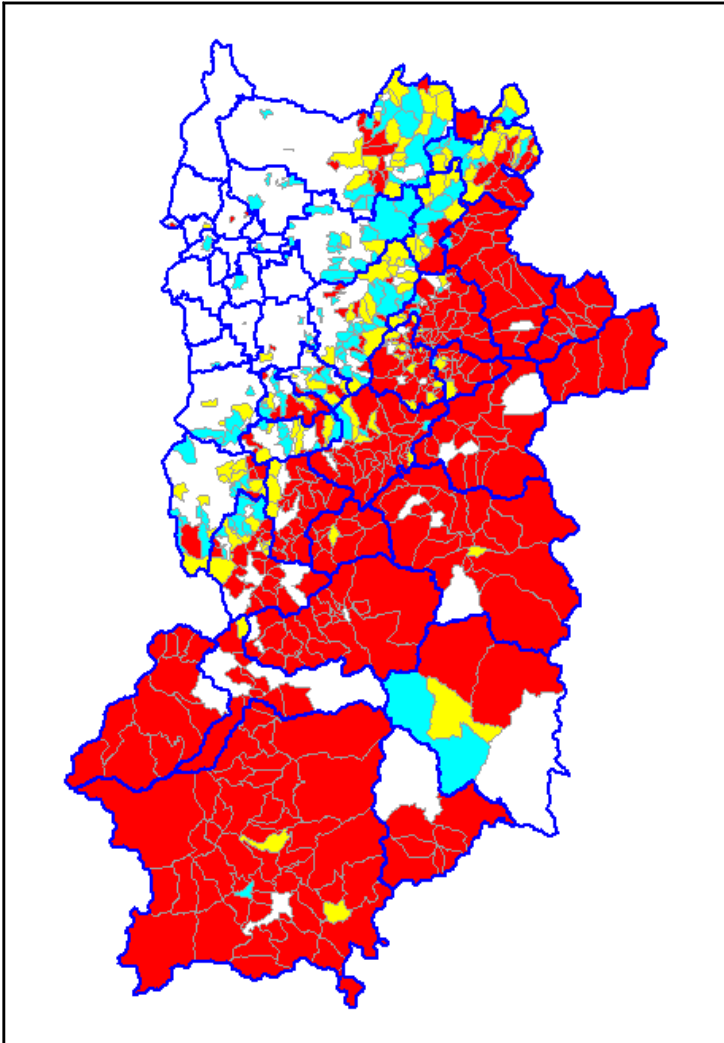
##### ・平成24年度

■ 増えた	122集落 (48.0%)
■ 変わらない	124集落 (48.8%)
■ 減った	8集落 ( 3.2%)
回答数	254集落

##### 参考) 平成23年度

■ 増えた	146集落 (53.1%)
■ 変わらない	124集落 (45.1%)
■ 減った	5集落 ( 1.8%)
回答数	275集落

## 6. シカの農地・集落周辺への出没動向(平成20～24年度の5年間の動向)



右図はシカの農地・集落周辺への出没の調査を開始した平成20年から平成24年までの5年間の動向である。

毎年集落毎に農地・集落周辺へのシカの出没を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ている。

そして、1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの回答を、「よく見る」を+1、「たまに見る」を±0、「あまり見ない」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまりよく見るが多い場合)は赤色で、0になる場合(つまりたまに見るになる場合)は黄色で、-1以下の場合(つまりあまり見ないが多い場合)は青色で各集落を色つけた。5年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した5年間、シカがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

シカの農地・集落周辺への出没は、県北部奈良市の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて多くなっている。近年分布が拡大した県北部や奈良盆地周辺地域では出没はまだ少ないようである。

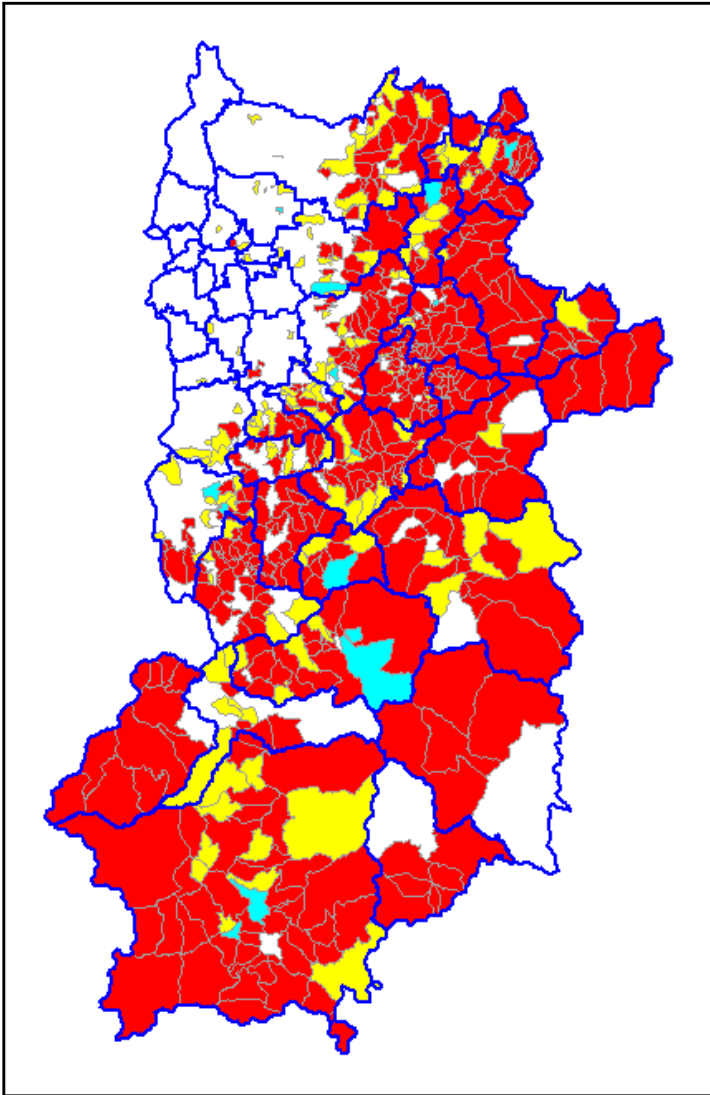
・平成24年度(2012年度)までの5年間

よく見る	351集落(57.6%)
たまに見る	127集落(20.9%)
あまり見ない	131集落(21.5%)
回答数	609集落

参考)平成23年度(2011年度)までの5年間

よく見る	351集落(55.9%)
たまに見る	125集落(19.9%)
あまり見ない	152集落(24.2%)
回答数	628集落

## 7. シカの農業被害意識の動向(平成20～24年度の5年間)



右図はシカによる農業被害の意識の5年間の動向である。

毎年集落毎に農業被害を前年度より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ている。

そして、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまり増えている場合)は赤色で、0になる場合(つまり変わらない場合)は黄色で、-1以下の場合(つまり減った場合)は青色で各集落を色つけした。5年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した5年間、シカがいない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

シカによる農業被害の意識は、ごく一部では減っているものの、県北東部や宇陀地域から県南部の吉野郡にかけての広範囲で増えており、また、農地・集落周辺への出没動向では「あまり見ない」となった県北部や奈良盆地周辺地域においても、「増えた」が多くなっている。そして回答を得た集落のうち約73%が増えたとなっていた。

なお、被害動向は昨年度までとほとんど変化は無かった。このことから、依然シカの農業被害は減っていないことがわかる。

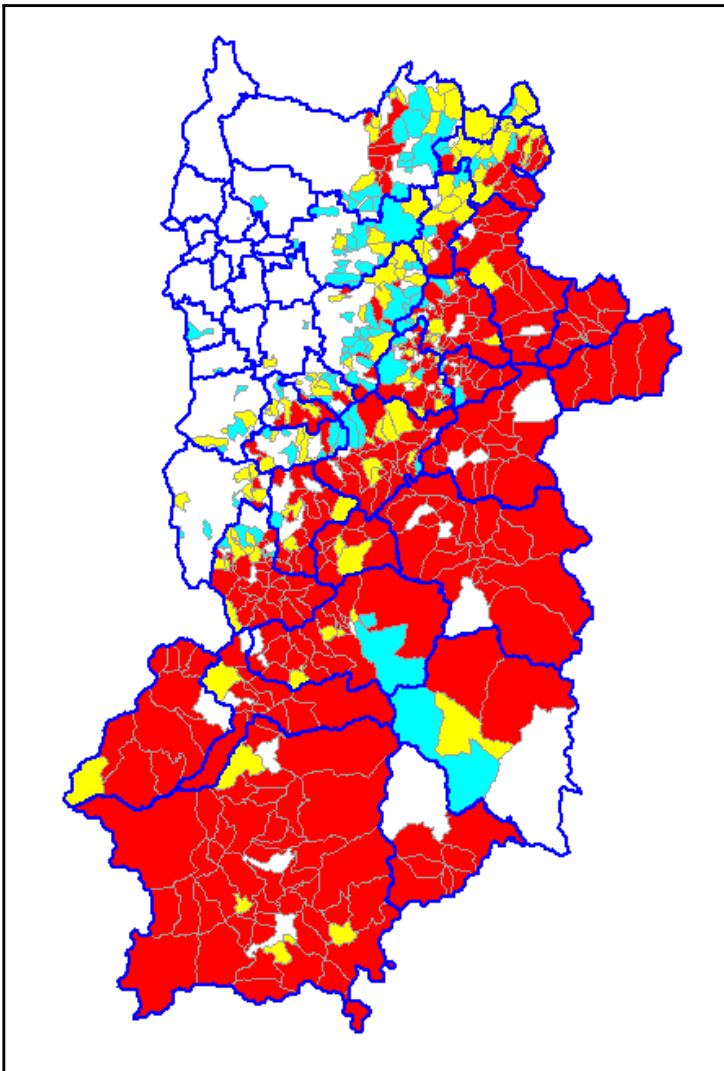
### ・平成24年度までの5年間

■ 増えた	442集落(72.9%)
■ 変わらない	151集落(24.9%)
■ 減った	13集落(2.2%)
回答数	606集落

### 参考)平成23年度までの5年間

■ 増えた	495集落(79.5%)
■ 変わらない	121集落(19.5%)
■ 減った	6集落(1.0%)
回答数	622集落

## 8. シカの山林・奥地森林での出沒動向(平成20～24年度の5年間)



右図はシカの山林・奥地森林での出沒の5年間の動向である。

毎年集落毎に山林・奥地森林でのシカの出沒を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ている。そして、1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの回答を、「よく見る」を+1、「たまに見る」を±0、「あまり見ない」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまりよく見るが多い場合)は赤色で、0になる場合(つまりたまに見るになる場合)は黄色で、-1以下の場合(つまりあまり見ないが多い場合)は青色で各集落を色づけした。5年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した5年間、シカがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

シカの山林・奥地森林での出沒は、農地・集落周辺での出沒と同様に、県北部奈良市の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて多くなっている。近年分布が拡大した県北部や奈良盆地周辺地域では出沒はまだ少ないようである。

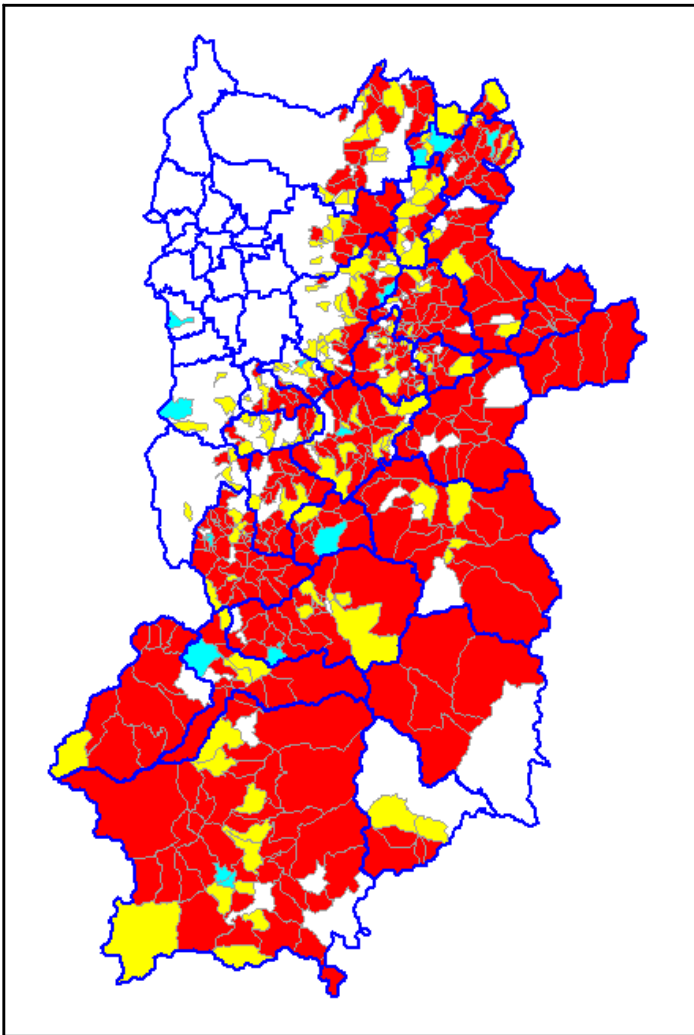
### ・平成24年度までの5年間

よく見る	308集落(56.7%)
たまに見る	128集落(23.6%)
あまり見ない	107集落(19.7%)
回答数	543集落

### 参考)平成23年度までの5年間

よく見る	321集落(57.5%)
たまに見る	125集落(22.4%)
あまり見ない	112集落(20.1%)
回答数	558集落

## 9. シカの林業被害意識の動向(平成20~24年度の5年間)



右図はシカによる林業被害の意識の5年間の動向である。

毎年集落毎に林業被害を前年度より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ている。そして、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合(つまり増えている場合)は赤色で、0になる場合(つまり変わらない場合)は黄色で、マイナスになる場合(つまり減った場合)は青色で各集落を色づけした。5年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した5年間、シカがいない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

シカによる林業被害の意識は、概ね農業被害と同様に、県北東部や宇陀地域から県南部の吉野郡にかけての広範囲で増えており、また、農地・集落周辺への出没動向では「あまり見ない」となった県北部や奈良盆地周辺地域においても、「増えた」が多くなっている。そして回答を得た集落のうち、約70%が増えたとなっており、シカの林業被害は減っていないことが判る。

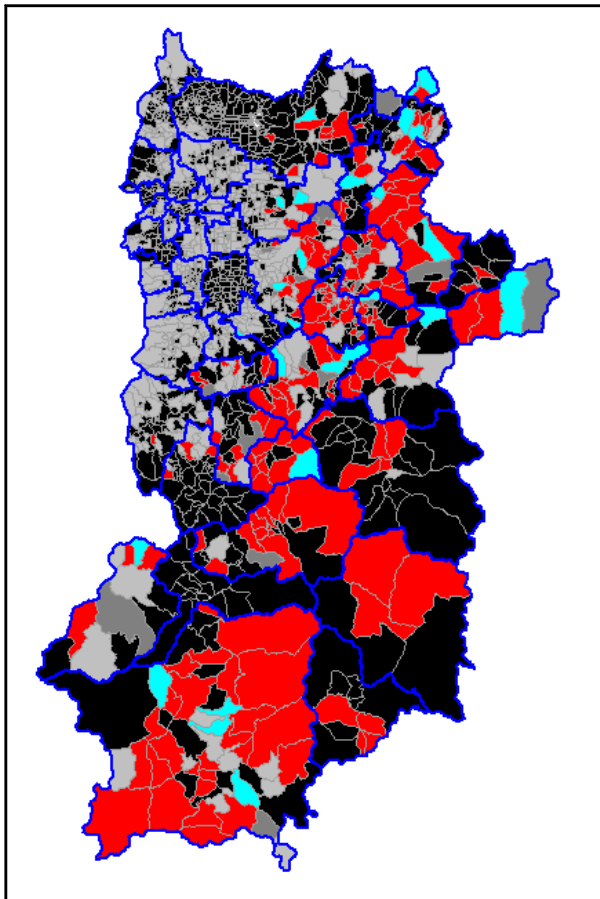
・平成24年度までの5年間

■ 増えた	358集落 (69.3%)
■ 変わらない	145集落 (28.1%)
■ 減った	14集落 ( 2.7%)
回答数	517集落

参考)平成23年度までの5年間

■ 増えた	392集落 (75.1%)
■ 変わらない	121集落 (23.2%)
■ 減った	9集落 ( 1.7%)
回答数	522集落

## 10. シカの被害対策 侵入防止柵(防護柵)の効果(平成24年度・農業)

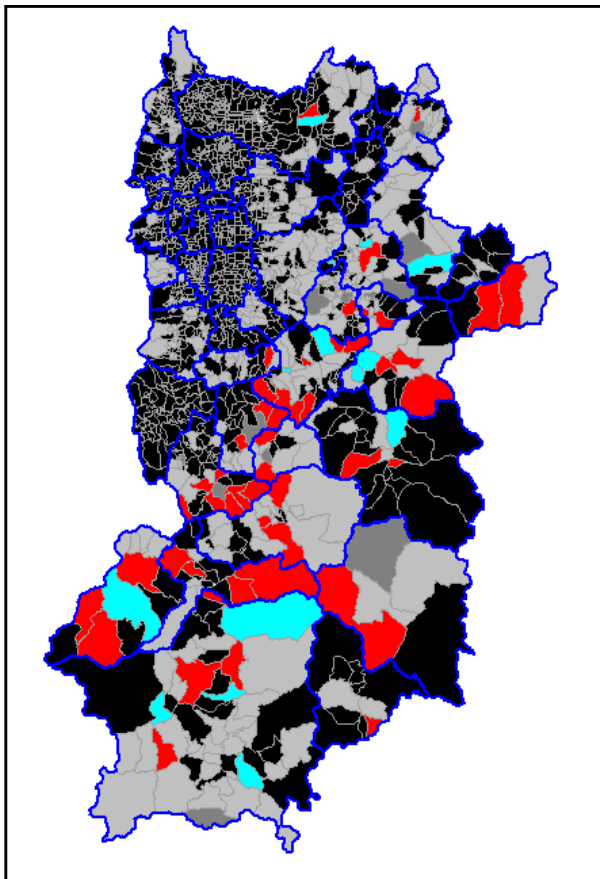


右図は平成24年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、シカ侵入防止柵(防護柵)の効果の意識調査の結果である。

本年度は回答のうち90%近くが効果があったしており、侵入防止柵を設置することによる被害防止効果は、非常に高いことがわかる。

■ 効果があった	192集落(87.3%)
■ 効果がなかった	28集落(12.7%)
回答数	220集落

## 11. シカの被害対策 侵入防止柵(防護柵)の効果(平成24年度・林業)



右図は平成24年度の林業集落アンケートによる、林業被害対策の、シカ侵入防止柵(防護柵)の効果の意識調査の結果である。

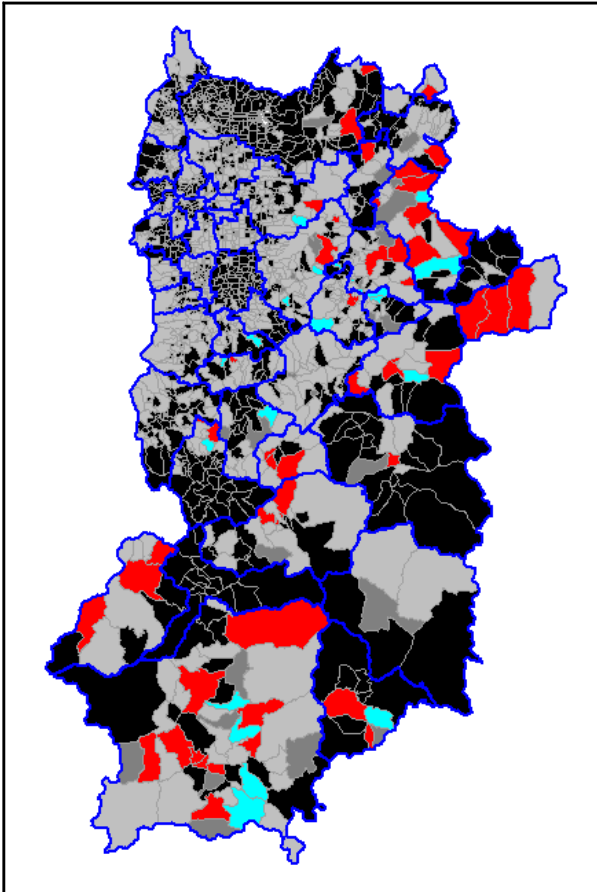
回答のうち約77%が効果があったとしており、侵入防止柵を設置することによる被害防止効果は、高いことがわかる。

■ 効果があった	48集落(77.4%)
■ 効果がなかった	14集落(22.6%)
回答数	62集落

なお、農業に比べて、効果があったとの回答がやや少なかった。これは、農業は居住地近くで営まれることが多く、人目にふれやすいため、その効果も目につきやすいこと。侵入防止柵の効果を最大限発揮させるためには見回り・メンテナンスによる破損の防止が重要であるが、山林・奥地森林で頻繁に見回りを実施できないため、破損が多く生じ、シカの侵入を許すことが農地よりも多いためと考えられる。



12. シカの被害対策 有害捕獲の効果(平成24年度・農業)

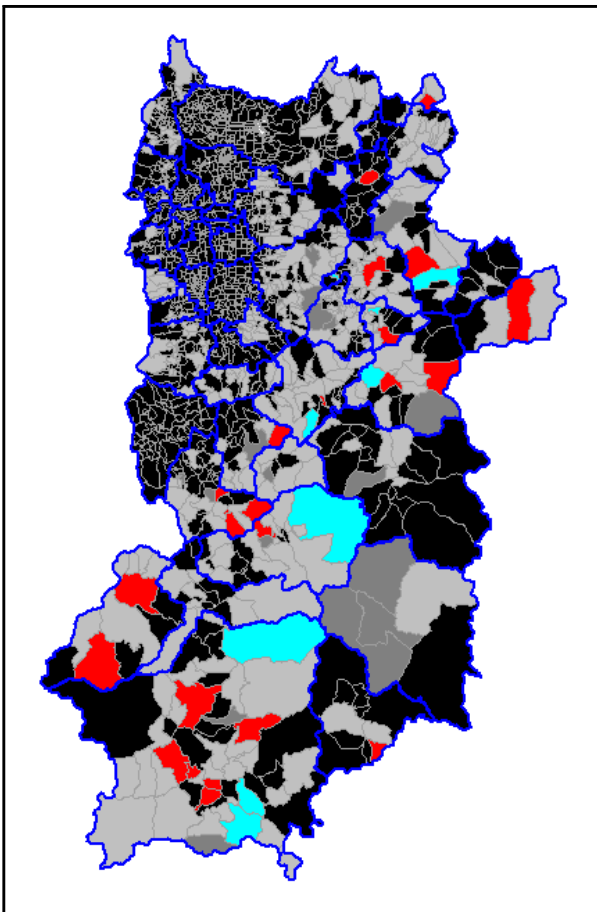


右図は平成24年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

回答のうち約70%が効果があったとしており、有害捕獲の効果は高いことがわかる。

■ 効果があった	49集落 (70.0%)
■ 効果がなかった	21集落 (30.0%)
回答数	70集落

13. シカの被害対策 有害捕獲の効果(平成24年度・林業)



右図は平成24年度の林業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

■ 効果があった	23集落 (71.9%)
■ 効果がなかった	9集落 (28.1%)
回答数	32集落

一昨年度までは、農業に比べて、効果があったという回答は少なかった。農地で有害捕獲を実施した場合、追い払い効果もあるため、出沒しなくなった場合など人目にその効果は人目につきやすいが、山林では追い払い効果も低く、効果があっても非常に目につきにくいのである。しかし、昨年度と同様、農業と同程度の効果の回答となった。

有害捕獲は、狩猟と併せて、生息数を低減させることで、被害も低減させようとするものである。生息数を低減させるために必要な捕獲数に達しない場合には、その効果が現れにくい。従って被害を低減させるためには更なる捕獲数の増大が必要である。

なお、侵入防止柵等の被害対策と組み合わせることで、より効果的に被害を低減させられるため、両者は併用しながら実施しなければならない。